

いわつぼびら
岩坪平遺跡

～エーユー九州支社（旧社名：九州セルラー電話株式会社）

高千穂北局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告～

2000年

エーユー九州支社

（旧社名：九州セルラー電話株式会社）

宮崎県西臼杵郡高千穂町教育委員会

AR
45
441

いわつぼびら

岩坪平遺跡

～エーユー九州支社（旧社名：九州セルラー電話株式会社）

高千穂北局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告～

2000年

エーユー九州支社

（旧社名：九州セルラー電話株式会社）

宮崎県西臼杵郡^{たかちほ}高千穂町教育委員会

序

高千穂町は、九州山地の中ほど「九州の心臓」にあたる位置にあり、「神話と伝説の町」として有名です。古くから考古学的な時代後期遺物の発見もあり、今回の発掘調査地点の近くでは弥生時代後期の「畠田式土器」が発見されています。

中世においては見晴らしのよい高台には山城が造られ、烽火や太鼓などで連絡をとっていたと考えられます。時代は変わって現代においては、携帯電話が普及し、都会や田舎を問わず、通信手段として重要性を増しています。そのような中、エーユー九州支社（旧社名：九州セルラー電話株式会社）から高千穂北局建設予定地内における埋蔵文化財の有無の照会があり、試掘調査を実施した結果、弥生時代後期の竪穴住居跡が検出されたため、本調査を行うこととなりました。

本書によって、発掘調査の成果が、社会教育はもとより学校教育においても広く活用されますことをお祈りしてはじめる言葉とします。

平成12年10月吉日

高千穂町教育委員会

教育長 出口 哲郎

例言

1. この報告書は、宮崎県西臼杵郡高千穂町大字上野字岩坪平 1089 番地所在の埋蔵文化財「岩坪平遺跡」の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、エーユー九州支社（旧社名：九州セルラー電話株式会社）の高千穂北局建設に伴うもので、調査費用などについて原因者であるエーユー九州支社（旧社名：九州セルラー電話株式会社）の全面的なご協力を賜った。
3. 発掘調査の期間及び調査体制は次のとおりである。

調査期間：平成12年5月8日～5月20日

調査主体：高千穂町教育委員会

教育長 出口哲郎

教育次長 甲斐栄夫

社会教育課長 田尻隆介

社会教育課長補佐兼文化財係長 工藤泰宏

社会教育課文化財係主任主事 緒方俊輔（調査担当）

社会教育課社会教育係主事 南條由紀（庶務担当）

社会教育課社会教育係国際交流員 アラン・ケイシー（Alan Casey）（英文翻訳）

調査指導：宮崎県教育委員会 文化課埋蔵文化財係主任主事 松林豊樹（県北担当）

発掘調査作業員：佐藤豊子・橋本スマ子・小林菜美子・興柁キヨ子・飯干ケサ子・内倉豊子・内倉ナオエ・内倉タス子・阿南多津子

遺物整理作業員：甲斐ミチ子・矢野真由美

調査協力：小林久実（下組公民館館長）・河内奈々（高千穂町コミュニティセンター臨時職員）・竹本ケサエ（高千穂町コミュニティセンターパート職員）・工藤日登美（同）・藤本圭司（高千穂町役場総務課電算室主事）

4. 遺構の空中写真は東亜航空技研株式会社が行い、その他の遺構及び遺物の実測図及びトレース、遺構及び遺物の写真撮影並びに編集及び執筆は緒方が行った。英文翻訳はアラン・ケイシーが行った。
5. 本調査にて出土した資料は、高千穂町コミュニティセンター（歴史民俗資料館）で収蔵・保管している。

〒882-1101 宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井1515
高千穂町コミュニティセンター（歴史民俗資料館）
(Tel.0982-72-6139/Fax.0982-72-6140)

目次

序	2
例言	2～3
目次（本文目次・挿図目次・表目次・図版目次）	3～4
第1章 位置と環境	4～8
第2章 発掘調査の経緯	8～9
第3章 遺構	9～10
第4章 遺物	11～16
第5章 まとめ・SUMMARY	11

挿図目次

- 第1図 高千穂町上野・下野地区遺跡詳細分布地図
- 第2図 岩坪平遺跡遺構実測図
- 第3図 岩坪平遺跡出土遺物実測図（その1）
- 第4図 岩坪平遺跡出土遺物実測図（その2）
- 第5図 岩坪平遺跡出土遺物実測図（その3）

表目次

- 第1表 上野・下野地区の埋蔵文化財地名表（その1）平成12年10月1日現在
- 第2表 上野・下野地区の埋蔵文化財地名表（その2）平成12年10月1日現在
- 第3表 岩坪平遺跡出土遺物観察表（その1/3）（七器）

第4表 岩坪平遺跡出土遺物観察表(その2/3)(土器)

第5表 岩坪平遺跡出土遺物観察表(その3/3)(石器)

図版目次

図版1 1=南側上空から見た調査区遠景(空中写真)

図版2 2=真上から見た調査区(空中写真)

図版3 3=重機による表土除去作業

4=発掘作業風景

5=竪穴住居跡(SA01)土層観察用ベルト除去前

図版4 6=竪穴住居跡(SA01)土層観察用ベルト除去前と土壌(SK02)

7=東から見た竪穴住居跡(SA01)土層観察用ベルト除去前

8=東から見た竪穴住居跡(SA01)土層観察用ベルト除去後(柱の位置に人物)

図版5 9=北から見た調査区

10=遺跡説明会風景

11=発掘調査作業員の皆さん

図版6 12~34=土器(1~16)の表・裏

図版7 35~48=土器(17~23)の表・裏

49~54=石器(24~26)の表・裏

図版8 55~76=石器(27~37)の表・裏

77=斜めから見た片口甕

第1章 位置と環境

岩坪平遺跡は、宮崎県西臼杵郡高千穂町大字上野字岩坪平1089番地に位置する。高千穂町の埋蔵文化財については遺跡詳細分布調査として報告書が刊行されているものとしては三田井・押方・向山地区のものしかないため、上野・下野地区については平成11年度に実施した資料を整理中であるが、今回の調査地点を含めた遺跡詳細分布地図を第1図に示し、その番号に対応する地名表を第1~2表に示した。なお、紙面の都合で親父山の四季見原の寺屋敷にあったとされる東福寺跡については範囲外となっている。

なお、遺跡の番号については、昭和57年に行った大字毎に千の位を変えていく方法では1~9までしか対応できないため、現在の大字の数では足りないため、上野・下野地区では便宜上、頭に旧村名の上野(かみの)村のKをつけ千の位は6つの公民館毎に変えることとした。

なお、インスタントレタリングの都合上、地図ではKを省略しているのでご了承ください。

1:25,000 祖母山



1:25,000 三田井



K4001	阿曾尾野平遺跡		大字上野字阿曾尾野平	鬼切畑	新布地	縄文時代
K4002	吉野平遺跡		大字上野字吉野平	岩坪	菰澤	弥生時代
K4003	船渡原平儀六墓群第1号横穴墓	上野6号古墳	大字上野字船渡原731	冬野	古墳(横穴墓)	古墳時代
K4004	船渡原平儀六墓群第2号横穴墓	上野6号古墳	大字上野字船渡原734	冬野	古墳(横穴墓)	古墳時代
K4005	柚木野横穴墓群第1号横穴墓	上野7号古墳	大字上野字柚木野862	柚木野東	古墳(横穴墓)	古墳時代
K4006	柚木野横穴墓群第2号横穴墓	上野8号古墳	大字上野字柚木野861の10イ	柚木野東	古墳(横穴墓)	古墳時代
K4007	柚木野横穴墓群第3号横穴墓	上野9号古墳	大字上野字柚木野861の10イ	柚木野東	古墳(横穴墓)	古墳時代
K4008	柚木野横穴墓	上野10号古墳	大字上野字柚木野1028	柚木野	横穴墓	中世
K4009	壘ノ平古墳	上野20号古墳	大字上野字壘ノ平1190	岩坪	古墳(円墳)	古墳時代
K4010	鬼船堀平玉輪塚残欠		大字上野字鬼船堀平	鬼切畑	横穴墓	中世～近世
K4011	新井平御神(出郡定郡氏宅裏墓地)		大字上野字新井平	岩坪	横穴墓	中世～近世
K4012	持節寺大神社板碑		大字上野字持節寺	岩坪	横穴墓	中世～近世
K4013	柚木野神社		大字上野字柚木野平	柚木野東	神社	近世～現代
K4014	高橋		大字下野字高橋	高橋	石橋	近世?
K4015	横口茶屋裏の三田井家供養所		大字上野字高橋11平	横口	供養塔	天保11(1840)年
K4016	阿曾尾野平供養碑		大字上野字阿曾尾野平	鬼切畑	供養塔	文化12(1815)年3月
K4017	岩坪集会所前重宝印塔		大字上野字岩坪平	岩坪	供養塔	明治34(1901)年
RS001	遠野遺跡		大字上野字遠野	遠野	新布地	中世
RS002	岩坪平輪堂玉輪塚残欠		大字下野字岩坪	広木野	横穴墓	中世～近世
RS003	岩坪下宝篋印塔		大字上野字岩坪下	広木野	横穴墓	中世～近世
RS004	陣内宝篋印塔・玉輪塚残欠		大字下野字陣内	広木野	横穴墓	中世～近世
RS005	陣内石橋		大字下野字陣内	広木野	石橋	
RS006	広木野石橋		大字下野字広木野	広木野	石橋	
RS007	淨光寺		大字下野字浄光寺	浄光寺	寺院	近世～現代
RS008	明神坊の墓(仮碑)		大字下野字遠野	遠野	横穴墓	中世
RS009	宮原道徳供養碑		大字下野字宮原	宮原	供養塔	明治12(1879)年
RS010	川崎神社		大字下野字上広木野	壺川	神社	近世～現代
RS011	岩坪不動堂		大字下野字広木野	広木野	寺院	近世～現代

第1表 上野・下野地区の埋蔵文化財地名表(その1) 平成12年10月1日現在

遺跡番号	名称	旧名称	所在地	小編	種別	時代
RS001	岩遺跡(甲斐利氏採集土器)		大字下野字	岩	新布地	弥生時代
RS002	尾ノ洞古墳群第1号古墳(假称)	上野14号古墳	大字下野字尾ノ洞513	岩	古墳(円墳)	古墳時代
RS003	尾ノ洞横穴墓	上野15号古墳	大字下野字尾ノ洞512	岩	古墳(横穴墓)	古墳時代
RS004	中津平儀六墓群第1号横穴墓(江部平一氏宅裏)	上野16号古墳	大字下野字中津平476のイ	岩	古墳(横穴墓)	古墳時代
RS005	尾ノ洞古墳群第2号古墳	上野17号古墳	大字下野字尾ノ洞505	岩	古墳(円墳)	古墳時代
RS006	尾ノ洞古墳群第3号古墳	上野18号古墳	大字下野字尾ノ洞500乙	岩	古墳(円墳)	古墳時代
RS007	中津平儀六墓群第2号横穴墓(由一志氏宅裏)	上野19号古墳	大字下野字尾ノ洞中津平534	岩	古墳(横穴墓)	古墳時代
RS008	壺原平輪堂・宝篋印塔残欠		大字下野字尾ノ洞513	岩	横穴墓	中世～現代
RS009	久野家墓・八輪塚群		大字下野字遠野	八輪	横穴墓	中世～現代
RS010	八輪大神社		大字下野字八輪	八輪	神社	中世～現代
RS011	南足寺		大字下野字八輪	八輪	寺院	中世～現代
RS012	神原家墓地下宝篋印塔残欠		大字下野字八輪	八輪	横穴墓	中世～近世
RS013	大原志乃氏宅宝篋印塔残欠		大字下野字八輪5157	八輪	横穴墓	中世～近世
RS014	井上神社		大字下野字井之上	井野	神社	近世～現代
RS015	八輪石橋		大字下野字八輪	八輪	石橋	
RS016	匠南の牧之石橋(小坂村)		大字下野字匠南	匠南	石橋	明治16(1873)年

第2表 上野・下野地区の埋蔵文化財地名表(その2) 平成12年10月1日現在

遺跡番号	名称	旧名称	所在地	小畑	種別	時代
K1001	赤の遺跡		大宇下野半木の山34	加藤	敷布地	縄文時代
K1002	町ノ平横穴墓群第1号横穴墓	上野11号古墳	大宇上野字町ノ平209	南町	古墳(横穴墓)	古墳時代
K1003	町ノ平横穴墓群第2号横穴墓	上野12号古墳	大宇上野字町ノ平192	中町	古墳(横穴墓)	古墳時代
K1004	神ノ水横穴墓	上野13号古墳	大宇上野字神ノ水326	神ノ水	古墳(横穴墓)	古墳時代
K1005	平庭横穴墓群第1号横穴墓		大宇上野字長尾庭平	平庭北	古墳(横穴墓)	古墳時代
K1006	積泉寺地蔵堂		大宇上野字神ノ水	神ノ水	寺院	中世～現代
K1007	神ノ水「一帯」穴中(岩川家墓地)宝篋印塔焼欠		大宇上野字神ノ水平	神ノ水	佛遺	中世～近世
K1008	飯嶋地蔵堂土輪塚焼欠		大宇上野字飯嶋平	飯嶋	佛遺	中世～近世
K1009	町ノ平「字」石墓塚		大宇上野字町ノ平184	南町	石塚	明治24(1895)年
K1010	惣古跡		大宇上野字園ノ平	園	神社跡	近世
K1011	久兵衛石橋		大宇上野字町ノ平	上町	石橋	天久3(1863)年建設/明治42(1909)年改修
K1012	八雲石橋		大宇上野字町ノ平	上町	石橋	天正15(1625)年12月
K2001	柳ノ平遺跡		大宇上野字柳ノ平	上野	敷布地	縄文時代
K2002	北ノ園遺跡		大宇上野字田井本平	田井本南	敷布地	縄文時代
K2003	玄武堀内遺跡		大宇上野字堀内平・字上野平	上野	敷布地	中世～近世
K2004	藤原東照寺跡		大宇上野字藤原山平「堂庭敷」		寺跡	中世
K2005	鶴泉寺		大宇上野字田之平	鶴泉寺	寺院	中世～現代
K2006	猿野八幡宮跡		大宇上野字八幡平	猿野	神社跡	近世
K2007	上野神社		大宇上野字田之平	鶴泉寺	神社	近世～現代
K2008	芥武郡跡		大宇上野字上野平	上野	郡跡	中世
K2009	養正堀池跡		大宇上野字上野平	上野	寺跡	中世～近世
K2010	古村惣石段門吉の墓(板碑)		大宇上野字上野平	上野	墳墓	天正9(1581)年没/文政2(1819)年再建
K2011	吉村惣石段門吉の墓(板碑)		大宇上野字田井本平	田井本南	墳墓	中世～近世?
K2012	虎御前宝篋印塔焼欠		大宇上野字蓮元平	鶴泉寺	佛遺	中世～近世
K2013	田井本遺跡(伽藍跡)「玉輪塚・宝篋印塔焼欠」		大宇上野字田井本平	田井本南	佛遺	中世～近世
K2014	鶴井加「高村家墓地」土輪塚焼欠		大宇上野字鶴井加平	鶴井加	墳墓	中世～近世
K2015	鶴井加「高村家墓地」土輪塚焼欠		大宇上野字鶴井加平	鶴井加	墳墓	中世～近世
K2016	上野村兵庫屋木家邸宅		大宇上野字鶴井加平	鶴井加	住居跡	近世
K2017	榎木家遺跡		大宇上野字鶴井加平	鶴井加	住居跡	近世
K2018	栗原石橋		大宇上野字久里原平	栗原	石橋	
K2019	小祝原石橋		大宇上野字祝原平	祝原	石橋	
K2020	藤原基盤墓室跡印塔		大宇上野字久里原平	藤原	佛遺	明治29(1896)年西園八十八ヶ所供養碑
K3001	旭崎平古墳	上野1号古墳	大宇上野字旭崎平2474	戸ノ口	古墳(円墳)	古墳時代
K3002	戸ノ口横穴墓群第1号横穴墓	上野2号古墳	大宇上野字戸ノ口平2401のハ	戸ノ口	古墳(横穴墓)	古墳時代
K3003	戸ノ口横穴墓群第2号横穴墓	上野3号古墳	大宇上野字戸ノ口平3401のハ	戸ノ口	古墳(横穴墓)	古墳時代
K3004	戸ノ口横穴墓群第3号横穴墓		大宇上野字戸ノ口平	戸ノ口	古墳(横穴墓)	古墳時代
K3005	戸ノ口横穴墓群第4号横穴墓		大宇上野字戸ノ口平	戸ノ口	古墳(横穴墓)	古墳時代
K3006	戸ノ口横穴墓群第5号横穴墓		大宇上野字戸ノ口平	戸ノ口	古墳(横穴墓)	古墳時代
K3007	二籠野古墳	上野4号古墳	大宇上野字二籠野平2175の乙	黒口南西	古墳(横穴墓)	古墳時代
K3008	今山寺		大宇上野字今山平	黒口南西	寺院	奈良～現代
K3009	戸ノ口遺跡(養正宝篋印塔焼欠)		大宇上野字戸ノ口平	戸ノ口	佛遺	中世～近世
K3010	百天寺跡		大宇上野字百天寺平	戸ノ口	寺院跡	近世?
K3011	百天寺五輪塚焼欠		大宇上野字百天寺平	戸ノ口	佛遺	中世～近世
K3012	河内国高安郡秋良野		大宇上野字西火寺平	戸ノ口	遺跡	天正10(1582)年3月24日
K3013	藤治石橋		大宇上野字秋原平	秋原	敷布地	近世?
K3014	高尾年神社五輪塚焼欠		大宇上野字藤原平	黒口南西	佛遺	中世～近世
K3015	今山寺大伏地蔵一帯(石墓塚)		大宇上野字今山平	黒口南西	佛遺	天久13(1869)年
K3016	今山寺川名家塚土輪塚焼欠		大宇上野字今山平	黒口南西	佛遺	中世～近世
K3017	黒口神社		大宇上野字二籠野	黒口南西	神社	近世～現代
K3018	安春の墓(板碑)		大宇上野字島越平	島越	墳墓	文化8(1869)年
K3019	正念寺		大宇上野字菅木平	菅木	寺院	近世～現代
K3020	中尾原古墳供養塔		大宇上野字菅木平	菅木	供養塔	文化元(1804)年12月
K3021	戸ノ口西園の夜型地蔵		大宇上野字戸ノ口平	戸ノ口	佛遺	明治10(1877)年

【旧石器時代の上野村】

旧上野村では、旧石器時代の遺跡は見つかっていない。高千穂町内でも宮ノ前第2遺跡から弥生時代の住居跡の埋上から剥片尖頭器が見つかっている。また、町内のどこから出たかは不明であるが、現在高千穂町コミュニティセンター（歴史民俗資料館）に展示中の高千穂高校郷土研究部採集資料に「御子柴タイプ」の石斧があり、旧上野村においても将来見つかる可能性も考えられる。

【縄文時代の上野村】

旧上野村でも後期～晩期の資料が漆野遺跡などで採集されている。

【弥生時代の上野村】

旧上野村の弥生時代の遺物としては、何と言っても^{おたぎ}楠木野出土の免田式土器があげられるが、柚木野のどこなのかは場所がわかっていない。現在、高千穂町コミュニティセンター（歴史民俗資料館）に展示中である。肩部に櫛歯状文を持つ谷遺跡出土の甕も高千穂町コミュニティセンター（歴史民俗資料館）に展示中である。

【古墳時代の上野村】

旧上野村の古墳時代の遺跡としては、日高正晴氏が調査した平底横穴墓があるものの、戦後の開墾で発見されるが調査はされなかった黒口戸ノ口横穴墓群などがある。なお、黒口戸ノ口横穴墓群は現在も天上が陥没しているものが数基確認されており、平成12年度に町内遺跡発掘調査等国庫補助事業の一環でレーザー探査を予定している。墳頂もあるが、内部主体の調査を行っているものは無く、まだよくわかっていない。

【歴史時代の上野村】

創建年代が奈良時代の今山寺、南北朝時代の龍泉寺、祖母嶽八社の上野神社、四指定天然記念物のイチヨウとケヤキで有名な下野八幡大神社、盲僧が活躍した篤足寺などの社寺仏閣をはじめ、玄武城を中心に柚木野城などの中世山城、久兵衛橋・八雲橋・高橋・八幡橋・陣内橋などの石橋など注目すべき遺跡も多い。また、県内でも珍しい「鳥八日」の板碑や庚申塔も存在が確認されている。また、西南の役の古戦場の小坂峠なども百郷隆盛ファンが数多く訪れている。

第2章 発掘調査の経緯

九州セラー電話株式会社より宮崎県西臼杵郡高千穂町大字上野字岩坪平 1089 番地での埋蔵文化財の有無の問い合わせがあり、高千穂町教育委員会では平成11年度の町単独予算で試掘調査を行った。その結果、弥生時代後期の堅穴住居跡があることがわかった。

九州セラー電話株式会社と協議の上、平成12年度に本調査を行うこととなり、委託契約を締結し発掘調査を実施することとなった。

調査範囲は、造成の際に削平される西側を中心とし、東側は試掘調査の際、遺構が見られなかったので廃土置き場とした。4月は人事異動や労災保険等の締結で時間が過ぎたのでゴールデンウィークの連休明けから調査に入ることとなった。

【5月8日(月) 晴れ】

プレハブ・トイレの設置。重機による表土除去。試掘調査で確認していた弥生時代後期の竪穴住居跡の南北幅が約4 m80 cmであることがわかった。

【5月9日(火) 晴れ】

本日より作業員導入。遺構検出。弥生時代後期の竪穴住居跡(SA01)と土壇(SK02)とビット群を確認。小林久実氏の話では江戸時代にこの場所に寺小屋があったそうである。

【5月10日(水) 曇り時々晴れ】

ビット群を完掘したが、遺物は無かった。弥生時代後期の竪穴住居跡(SA01)の土層図実測及び写真撮影。弥生時代後期の土壇(SK02)の掘り下げ。

【5月11日(木) 雨】

雨のため作業休み。

【5月12日(金) 晴れ】

弥生時代後期の竪穴住居跡(SA01)のビットの完掘。

【5月15日(月) 晴れ】

東亜航空技研株式会社のラジコンヘリコプターによる空中写真撮影。

【5月17日(水) 晴れ】

午後よりマスコミ各社に記者発表。

【5月20日(土) 晴れ】

遺跡説明会。上野小学校池上一成校長をはじめ、遠くは日向市から考古学ファンが訪れた。

【5月21日(月) 晴れ】

プレハブ・トイレ撤去。

現場引渡し。

第3章 遺構

表土除去後、アカホヤ火山灰(Ah)層および黄茶色粘土(Aso-4)の上で竪穴住居跡1軒と土壇1基を検出した。

竪穴住居跡(SA01)→調査区中央で検出した弥生時代後期の竪穴住居跡。調査区の都合上、西側は検出できていない。南北幅が4 m80 cmを計測する。

土壇(SK02)→調査区西北隅で検出した弥生時代後期の土壇。縄文時代後～晩期の遺物も混じる。

Level=436.000m
N ————— S

Level=436.000m
W ————— E

埋土=茶褐色土

地山=黄茶色粘土及びアカホヤ火山灰



第2図 岩坪平遺跡構実測図 (縮尺=1/100)

第4章 遺物

土器

縄文土器 縄文後～晩期の深鉢・浅鉢の破片。

弥生土器 片口甕の破片や須玖式の丹塗磨研土器の破片など。

石器

打製石器

打製スクレーパー

磨製石器

磨製石鏃 完成品と未完成品がある。

砥石

小さな破片が多く、直径が出せるような大きな破片は出土していない。詳細は、観察表を参照のこと。

第5章 まとめ・SUMMARY

まとめ

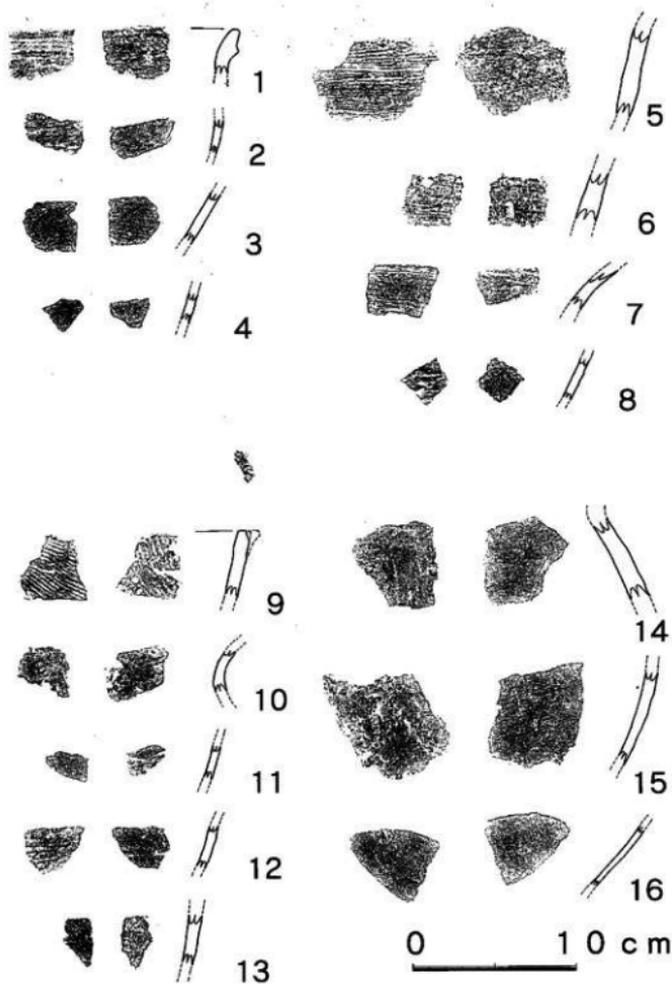
岩坪平遺跡の発掘調査では、当初期待されていた免田式土器は出土しなかったが、弥生時代後期の竪穴住居跡1軒と土壇1基の遺構と縄文土器・弥生土器・打製スクレーパー・磨製石鏃の完成品及び未完成品・砥石などが出土した。特に、弥生土器の片口甕の破片は、県内でも珍しい。また、磨製石鏃は完成品と未完成品が砥石とセットで出土していることから生産遺跡と考えることができる。

Summary

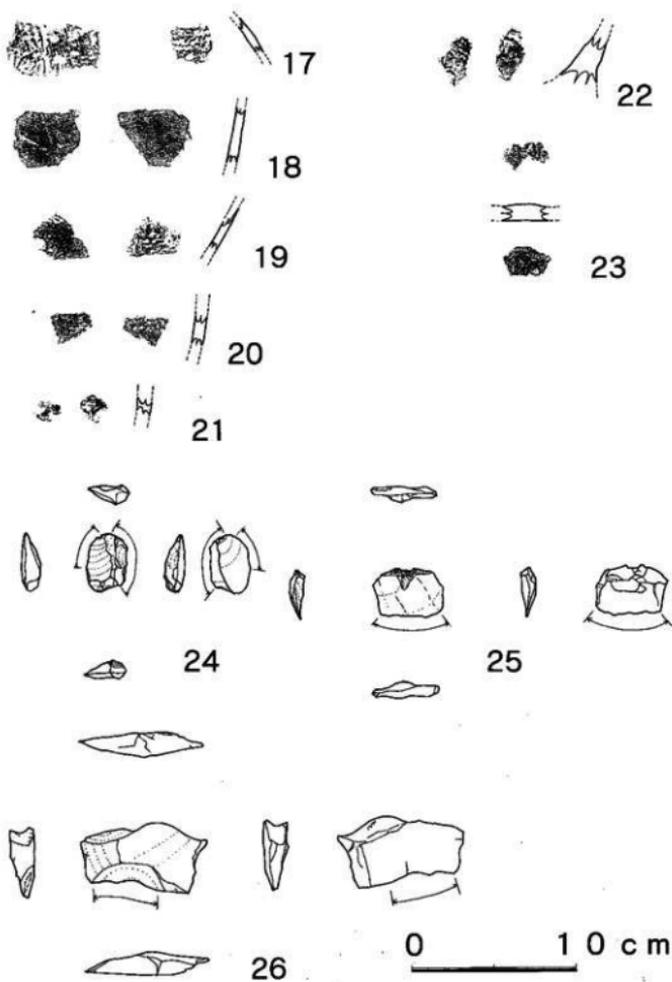
Results of excavations carried out on the *Iwatsubobira*(岩坪平) site :

Both a *tateana dwelling*(竪穴住居) and a *garbage hole*(土壇) dating from the late Yayoi period (AD2-3C) were discovered.

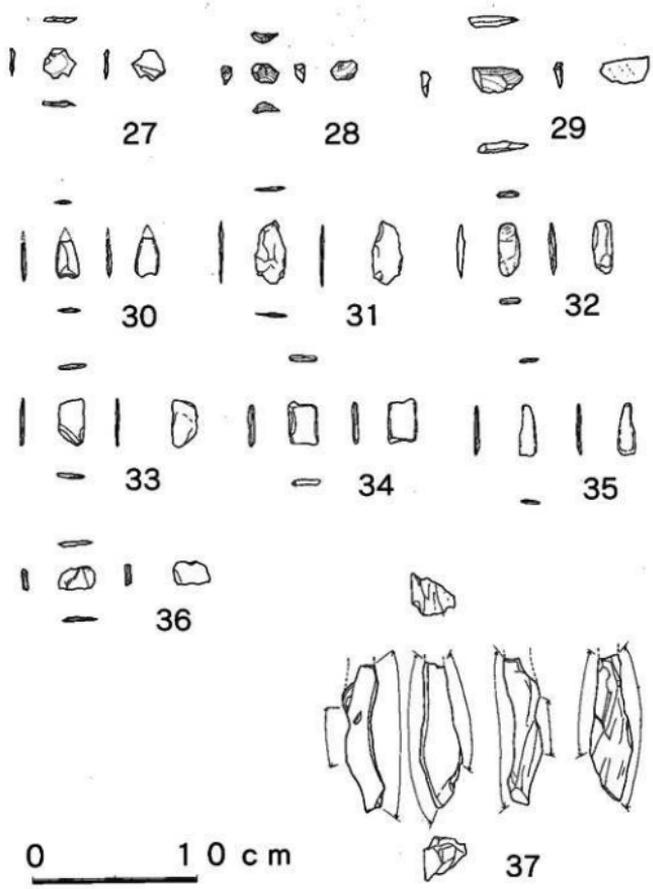
Yayoi pottery, *polished arrowheads*(磨製石鏃) and *polishing stones*(砥石) were also unearthed. Among these finds was a *square-mouth jug*(片口甕) which is very rare discovery for Miyazaki prefecture.



第3図 岩坪平遺跡出土遺物実測図 (その1) 縮尺=1/3



第4図 岩坪平遺跡出土遺物実測図(その2) 縮尺=1/3



第5図 岩坪平遺跡出土遺物実測図 (その3) 縮尺=1/3

番号	名称	器種	部位	色調	焼成	胎土	調整	出土遺構
1	縄文土器	深鉢	口縁部 破片	外面: 黒褐(Hue10YR3/14) 断面: にぶい黄橙(Hue10YR6/3) 内面: 褐灰(Hue10YR4/1)	良	密(径1-2mmの 石英・長石・白雲母 まばらに含む)	外面及び内面とも ヨコナデ。	表土
2	縄文土器	浅鉢	胴部 破片	外面: にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4) 断面: にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4) 内面: にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4)	良	緻密(径1mm未満の 長石を極わずかに 含む。)	外面はヘラ削り後 ナデ、内面はヨコ ナデ。	SA01
3	縄文土器	浅鉢	胴部 破片	外面: 黒(HueN1.5/0) 断面: 褐(Hue7.5YR4/4) 内面: 黒褐(Hue5YR2/1)	良	緻密(径1mm未満の 白雲母を極わずかに 含む。)	外面及び内面とも ヘラミガキ。	SA01 ピツha
4	縄文土器	浅鉢	胴部 破片	外面: 黒褐(Hue10YR3/1) 断面: 褐(Hue7.5YR4/6) 内面: 黒褐(Hue10YR3/2)	良	緻密	外面及び内面とも ヘラミガキ。	SA01 ピツhd
5	縄文土器	深鉢	胴部 破片	外面: にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4) 断面: にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4) 内面: にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4)	良	密(径1-2mmの カクセン石、径1mm 前後の石英・長石 ・白雲母多い。)	外面及び内面とも 条痕紋状のヨコ ナデ。	SK02
6	縄文土器	深鉢	胴部 破片	外面: にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4) 断面: にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4) 内面: 明赤褐(Hue2.5YR5/6)	良	密(径1mm前後の 長石・石英・カクセン 石・白雲母、若干含 む。)	外面及び内面とも ハケ目状のヨコ ナデ。	SK02
7	縄文土器	深鉢	口縁部 に近い 胴部 破片	外面: にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4) 断面: 赤灰(Hue2.5YR5/1) 内面: にぶい赤褐(Hue2.5YR5/3)	良	密(径1mm未満の 長石・カクセン石を 若干含む。)	外面はヘラミガキ で上方に凹線が 巡る。内面はヨコ ナデ。	SK02
8	縄文土器	浅鉢	胴部 破片	外面: にぶい褐(Hue7.5YR5/3) 断面: 褐(Hue7.5YR4/3) 内面: にぶい褐(Hue7.5YR5/3)	良	密(径1mm未満の 長石・石英含む。)	外面はナデ。 内面は丁寧なヨコ ナデ。	SK02
9	弥生土器	片口甕	口縁部 破片	外面: にぶい橙(Hue7.5YR6/4) 断面: にぶい橙(Hue7.5YR6/4) 内面: 橙(Hue7.5YR7/6)	良	緻密(径1mm前後の 石英をわずかに含 む。)	外面及び内面とも 右上がりのハケ目 調整。口縁の一部 をくぼし状に突 出させて片口をな している。	SA01
10	弥生土器	甕	頸部 破片	外面: 灰褐(Hue5YR5/2) 断面: にぶい橙(Hue5YR6/4) 内面: 褐灰(Hue5YR6/1)	良	緻密(径1-2mmの 石英を若干含む。)	外面上半はヨコナ デ、下半はハケ目 調整。内面上半は ヨコナデ、下半は ナデ。	表土
11	弥生土器 須玖式 丹塗磨研	壺or甕	胴部 破片	外面: 明赤褐(Hue2.5YR5/8) ↑赤色顔料。 断面: 橙(Hue2.5YR6/6) 内面: 橙(Hue2.5YR6/6)	良	緻密(径1-2mmの カクセン石を若干含 む。)	外面はヘラミガキ 後、丹塗り。 内面はヨコナデ。	表土
12	弥生土器	壺or甕	胴部 破片	外面: にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4) 断面: にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4) 内面: にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4)	良	緻密(径1mm未満の 白雲母・カクセン石 を極わずかに含む。)	外面及び内面とも ヨコナデ。	SA01 ピツha
13	弥生土器	壺or甕	胴部 破片	外面: にぶい赤褐(Hue5YR4/3) 断面: 灰褐(Hue5YR4/2) 内面: 褐灰(Hue5YR4/1)	良	緻密(径1mm未満の 長石・カクセン石 を極わずかに含む。)	外面及び内面とも ヨコナデ。	SA01
14	弥生土器	壺	胴部 破片	外面: 橙(Hue7.5YR6/6) 断面: にぶい橙(Hue7.5YR6/4) 内面: 褐灰(Hue7.5YR4/1)	良	密(径1mm前後の 長石・白雲母を若干 含む。)	外面及び内面とも ナデ。外面の上部 はヨコナデ。	SA01

第3表 岩坪平遺跡出土遺物観察表(その1/3)(土器)

番号	名称	器種	部位	色調	焼成	胎土	調整	出土遺構
15	弥生土器	壺	胴部 破片	外面: 明赤褐(Hue2.5YR5/6) 断面: 黒(HueN1.5/) 内面: 黒(HueN1.5/)	良	密(径1mm未満の 白雲母・長石を極わ ずかに含む。)	外面はナデ。内面 はミガキ。	SA01
16	弥生土器	壺	胴部 破片	外面: 橙(Hue7.5YR6/8) 断面: 褐灰(Hue7.5YR4/1) 内面: 褐灰(Hue7.5YR4/1)	良	緻密(径1mm未満の 白雲母を極わずかに 含む。)	外面及び内面とも ミガキ。	SA01
17	弥生土器	甕	肩部 破片	外面: 黒褐(Hue10YR3/1) 断面: にぶい黄橙(Hue10YR6/3) 内面: にぶい黄橙(Hue10YR7/4)	良	緻密(径1mm未満の 長石を極わずかに含 む。)	外面はハケ目。 内面はヨコナデ。	SK02
18	弥生土器	壺or甕	胴部 破片	外面: 明赤褐(Hue2.5YR5/6) 断面: 明赤褐(Hue2.5YR5/8) 内面: 明赤褐(Hue2.5YR5/8)	良	密(径1mm未満の 石英・白雲母を極わ ずかに含む。)	外面はナデ。内面 はヨコナデ。	SK02
19	弥生土器 須玖式 丹塗磨研	壺or甕	胴部 破片	外面: にぶい黄橙(Hue10YR7/4) 赤色顔料: 赤(Hue7.5R4/6) 断面: にぶい黄橙(Hue10YR7/2) 内面: 灰白(Hue10YR7/1)	良	緻密(特に目立った 砂粒なし。)	外面は左上がりの ハケ目調整後、丹 塗りを施す。内面 はナデ。	SK02
20	弥生土器	壺or甕	胴部 破片	外面: にぶい褐(Hue7.5YR5/4) 断面: にぶい橙(Hue7.5YR6/4) 内面: 灰褐(Hue7.5YR5/2)	良	密(径1mm前後の 長石・白雲母を極わ ずかに含む。)	外面及び内面とも ナデ。	SK02
21	弥生土器	壺or甕	胴部 小破片	外面: 黒(HueN1.5/0) 断面: 明赤褐(Hue2.5YR5/6) 内面: 赤黒(Hue2.5YR2/1)	良	密(特に目立った 砂粒なし。)	外面及び内面とも ナデ。	SK02
22	弥生土器	甕	底部 破片	外面: にぶい橙(Hue5YR6/4) 断面: にぶい橙(Hue5YR6/4) 内面: 褐灰(Hue5YR4/1)	良	密(径1-2mmの 石英・カクセン石を 極わずかに含む。)	外面上半にハケ目 調整。外面下半 及び内面はヨコ ナデ。	SK02
23	弥生土器	壺or甕	底部 破片	外面: 明赤褐(Hue2.5YR5/6) 断面: にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4) 内面: にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4)	良	密(径1mm前後の 長石・カクセン石・白 雲母を若干含む。)	内面はヨコナデ。 外面はナデ。	SK02

第4表 岩坪平遺跡出土遺物観察表(その2/3)(土器)

番号	名称	法量(cm)	重量(g)	石材	出土遺構
24	スクレーパー	3.70×2.50×1.20	9.58	黒曜石	SA01
25	スクレーパー	4.26×2.98×1.00	9.9	黒曜石	SA01
26	剥片	7.69×4.42×1.50	43.19	砂岩	SK02
27	剥片	1.82×2.01×0.39	1.15	チャート	SA01 ビッテ
28	剥片	1.13×1.65×0.56	0.82	黒曜石	SK02
29	剥片	1.54×3.12×0.61	2.19	チャート	SA01
30	磨製石鏃(完成品)	2.46+α×1.38×0.27	1.2	結晶片岩	表土
31	磨製石鏃(未完成品)	3.84×1.86×0.22	1.78	結晶片岩	SK02
32	磨製石鏃(未完成品)	3.26×1.20×0.39	1.89	結晶片岩	SK02
33	磨製石鏃(未完成品)	2.88×1.58×0.25	1.27	結晶片岩	SA01
34	磨製石鏃(未完成品)	2.77×1.71×0.38	2.85	結晶片岩	表土
35	磨製石鏃(未完成品)	3.17×1.09×0.28	1.35	結晶片岩	SA01
36	磨製石鏃(未完成品)	1.48×2.27×0.30	1.45	結晶片岩	SK02
37	砥石	8.63+α×2.61×2.15	40.6	粘板岩	SK02

第5表 岩坪平遺跡出土遺物観察表(その3/3)(石器)

图 版



南側上空から見た調査区遠景（空中写真）

図版2



真上から見た調査区（空中写真）

重機による表土除去作業



発掘作業風景



竪穴住居跡(SA01)土層観察
用ベルト除去前



竪穴住居跡 (SAO1) 土層観察
用ベルト除去前と土壌(SKO2)



東から見た竪穴住居跡 (SAO1)
土層観察用ベルト除去前



東から見た竪穴住居跡 (SAO1)
土層観察用ベルト除去後
(柱の位置に人物)



北から見た調査区

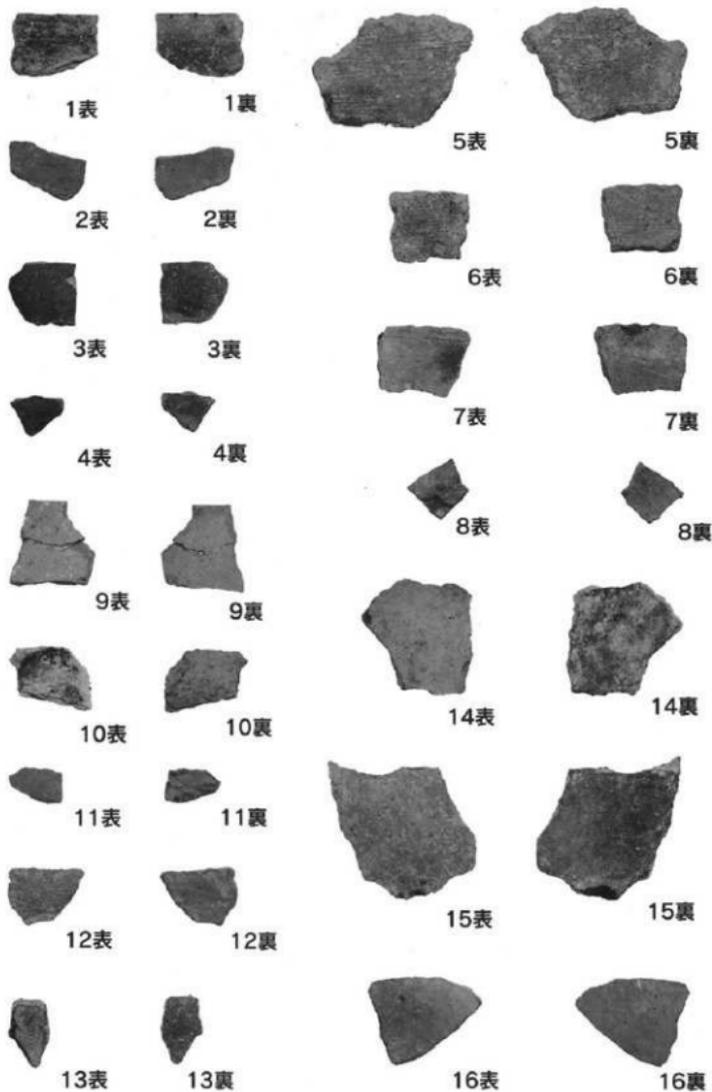


遺跡説明会風景



発掘調査作業員の皆さん





土器 (1~16) の表・裏



17表



17裏



22表



22裏



18表



18裏



19表



19裏



23表



20表



20裏



23裏



21表



21裏



24表



24裏



25表



25裏

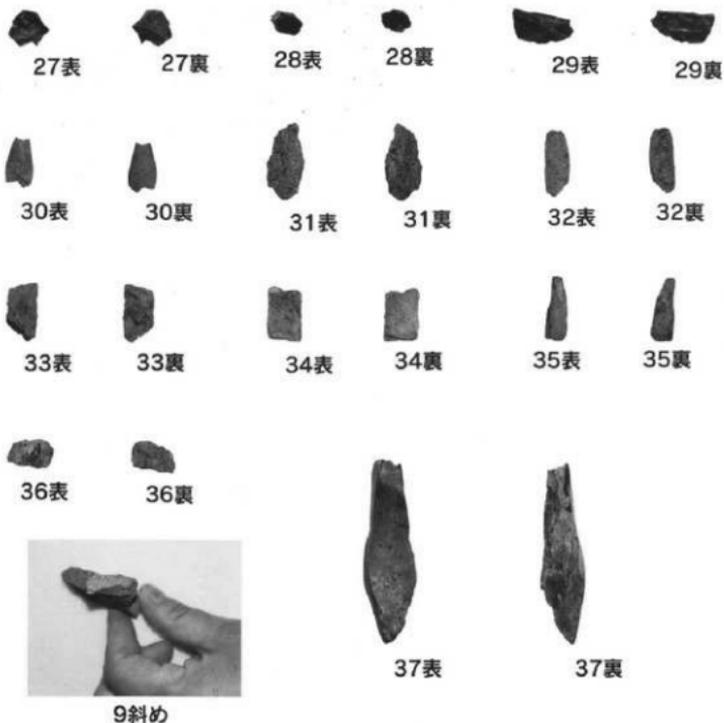


26表



26裏

土器 (17~23) の表・裏
土器 (24~26) の表・裏



石器 (27~37) の表・裏
斜めから見た片口覽

抄録

ふりがな	いわつぼびらいせき
書名	岩坪平遺跡
シリーズ名	高千穂町文化財調査報告書
シリーズ番号	第13集
編著者名	緒方俊輔
編集機関	高千穂町教育委員会
所在地	〒882-1192 宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井13番地

収録遺跡名	いわつぼびらいせき 岩坪平遺跡
所在地	みやざきけんにしうすきぐんたかちほちようおおあざかみのあざいわつぼびら 宮崎県西臼杵郡高千穂町大字上野字岩坪平1089番地
市町村コード	45441
遺跡番号	K4002
北緯	31° 44' 05"
東経	133° 46' 55"
調査期間	平成12年5月8日～5月20日
調査面積	60m ²
調査原因	携帯電話基地建設
種類	集落
主な時代	弥生時代後期
主な遺構	竪穴住居跡1、土壇1
主な遺物	縄文土器・弥生土器(片口甕ほか)・磨製石鏃(完成品・未完成品)・砥石など

高千穂町文化財調査報告書第13集

「岩坪平遺跡」

【編集・発行】

〒882-1192 宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井13番地
高千穂町教育委員会 社会教育課 文化財係

【印刷】

〒882-1101 宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井721番地
川辺印刷所

【発行年月日】

平成12年(西暦2000年)12月

